

遊文通信

Vol.12

デジタルプリンティングの新たなステージへ

オンデマンドなのに 高品質を合言葉に!!

富士ゼロックスが新たに開発したColor 1000 Pressはハイエンドクラスで初めて EA-Eco トナーを採用。オイルレスタナーで今までオンデマンドプリントの欠点とされていたギラツキが無くなった。また、新開発のクリアトナーが搭載できるので光沢の表面加工や透かしプリントなどデザイン面での活用範囲が広がりました。

高速プリントでも安定した定着温度を保つ新開発のベルトロール定着器を採用。EA-Eco トナーの採用とあわせ、プリント表現できる色域が拡大されているということです。

また、新しく開発されたフルカラータンデムエンジン、大径シームレス中間転写ベルトの採用により、紙厚も四六判48kg～四六判330kgまでの対応が可能となりました。また、レザックなどのファンシーペーパー（表面エンボス加工の紙）への印刷も可能となっています。

新たなオンデマンド創出のために

印刷速度はA4サイズなら毎分100ページ、A3サイズで50ページの高速フルカラー出力ができるようになった。これまでのように用紙の厚みによりプリント速度がおちるという事も無くなり、生産性の向上が期待できるほか、用紙サイズも488mm×330mmまでに拡大されました。また、補助器具をセットすることで官製ハガキ（100mm×148mm）への印刷も可能

になっています。

さらにオンデマンドの欠点とされてきた定着の際の高熱による用紙の波打ち・静電気も冷却装置が備わった事でほとんど気にならなくなり、書籍物を印刷した際にも製本加工が非常にやりやすくなり品質も向上しました。これまでオンデマンドはあくまで簡易印刷と考えていた部分が払拭され色味・質感などにもこだわる製品への対応が可能となりました。

より高品質な少数数を実現するために

弊社ではすでに少数数の画集の印刷依頼に対応しましたが、お客様には非常に高い評価を頂いています。遊文舎では“オンデマンドなのに高品質”を売りにした商品開発に取り組みを始めています。絶版になった書籍の少数数復刻、自費制作の画集・写真集などを企画中です。

新開発のオーバーコート感光体ドラムは、ドラム表面に特殊加工を施すことで、耐摩耗性、対傷性能が強化され、さらに、大径シームレス中間転写ベルトは、継ぎ目のない長尺シームレス構造を採用することで、安定した高画質と長寿命を実現しているということです。

当然の事ですがColor 1000 Pressも、バリアブルプリンティング*1により、カタログ、ダイレクトメール、チラシなどの販促物での可変印刷も得意としています。

*1 各種データベースのデータのような可変するデータに基づき、印刷するページ一枚一枚に対して、テキスト、線画、画像などといった印刷内容のレイアウトは同じで内容を差し替えて印刷を行うことをさす。



1000
2011年10月導入
Press

Color 1000 Press

twitter™

最短
3時間
で印刷!
びくすぶ

@sugusurucom

http://twitter.com/sugusurucom

栄光の 架け橋 第12回

第12回は印刷には無くてはならない用紙を届けてもらっています
(株)宗次 児島氏にお話をお聞きしました。

—(株)宗次についてお聞かせください

初代の社長が昭和23年に創業しました。洋紙と和紙の販売一筋に今年で63年を迎えます。手締めの旧式断裁機1台とリヤカー配達で、福島区の小さなビルで始めた会社も現在は尼崎へ店舗を移し最新式断裁機4台を構え総勢30名の従業員で頑張っております。

—今、力を入れているものは何ですか？

10年ほど前より(株)Dネットという別会社を設立致しました。印刷物に関わるクリエイター(デザイナー・カメラマン・イラストレーター等)の派遣や紙製品の製作、また翻訳や英語教材の販売などを行っており、取引先の印刷会社さんにもよく利用していただいております。

—気をつけていることってありますか？

“必要な時に必要な量を適正な価格で”をモットーにお客様の短納期のご要望に出来る限りご対応出来るよう頑張っております。基本的な商品の間違いなどを無くすようチェック機能を強化しております。

—遊文舎の印象はどうですか？

軽印刷業界ではまだまだ電話発注や紙伝票による工程管理が中心のなか、メール発注や管理ソフト「ぶぶり」の活用により、どのセクションから



工場内のひとコマ

も印刷物の工程をチェックしたり管理したり出来るというのは、作業を迅速化させたりミスを限りなく少なく出来るシステムではないかと思えます。また制作においても発想力、提案力は他社と比べて抜きん出た会社だと思えます。

—今後の展望や遊文舎への要望は？

Dネットの方で半年前に簡易の上製本とPPの機械を導入致しました。これを活用し、安価で1冊1冊がオリジナルの冊子を製作しております。ただ出力機がないので遊文舎さんの最新式ゼロックスC1000を活用し、オンデマンド冊子の製作の幅を一緒に広げていけたらいいと考えておりますので、パートナーとしてよろしくお願ひします。

(聞き手：dandy)



だーくんの 趣味を語れい!

Level.12

僕、『だーくん』の趣味はゲーム。というわけで、今までに夢中になったゲームの思い出なんかをなんとはなしに書いていこうと思います。

師走です。ワールドカップ予選も盛り上がっていますね。

そんなわけで、このソフト。

「Jリーグサッカー プライムゴール」



サッカーゲームといえば、ウイニングイレブンを挙げる方が多いと思います。実際僕もそうです。ただ、このゲームの発売日はJリーグが開幕したということもあり、非常にサッカーが盛り上がった時期でした。Jリーグチップス、カレ、カードやらも流行っていました。

そんな時期に、Jリーグの実名選手のゲームを出された日には、飛びつくしかないでしょう。この時は、ジェフ市原を使っていました。なぜか、覚えていません。リトバルスキーが好きだったのは何となく覚えてはいますが。。。

システム自体も悪くなく、時期も相まって、悪い点が見つかりません。個人的感情が溢れる作品です。



日も暮れはじめる午後、社内は一気に緊張感が増す。記者たちの怒声、読み合わせ校正の二重奏（声？）、頭の上を飛び交う原稿や写真、そんな中を、赤ペンを持ってゲラを追いかける、追いかける…

ゲラの一部には、煙草の灰でできた焦げ跡。

——まるで、動物園だな、ここは…。

午後5時10分。

「版、下ろせーっ！！」

編集局長の一声で、階下にある「新聞輪転機」の作業場へ…。一瞬にして工場に緊張が走る。モクモクと輪転機を回し始める職人の額からは流れる大粒の汗…。

——好きなんだな—、この音とインクの匂い…

味気なく連なっていた、単なる文字だった活字が紙にのり、一瞬にして色香を持ち始める。漸く、文字が記事になる瞬間である……快感。

階上では、記者たちが、他新聞との競り合い論争をしている。

——違うんだよ、君たちだけがヒーローじゃない。本物のヒーローは、自分に出来ることを一生懸命にやって、人知れず、誰かの役に立っているものだよ。

約15年前の光景である…



現在、活字好きが高じて、遊文舎で主に出版物の品質管理・校正の仕事に携わっている。

ここでは、印刷知識をはじめ、紙との出会いが一番の収穫である。紙という「長い歴史」を持つ素材を通して言葉の大切さを伝えるとともに、紙の持つ素材・風合いで天気、季節を感じる…何事にも替えがたいほど貴重な経験。

……が、しかし、2010年は、「電子書籍元年」と言われ、スマートフォンや電子ブックリーダー、i Padなど新しい

端末向けの電子書籍が売り出され、未完成観は否めないが、売り上げもまずまず？…それに伴い「出版不況」も話題になり、いよいよ、「紙離れ」を実感せずにはいられない。さらに、世界的にもヨーロッパをはじめ、国家経済はあちこちで破綻し、日本も人ごとではなく間違いなく悪影響は受けている。

そんな中、伝統を守りつつ、時代に合ったものは「新しい可能性」として受け入れ、新たに模索していく…印刷物と真摯な対峙をおこなう…などなど。

難しい…理想論ですが、ね。

「きれいな印刷をするには版が大事だからね、心もきれいにしておかないとね」

とは、某印刷屋さんの職人さん。

では、少しここで、アナログ人間が驚いた？情報を…

【立体物を“印刷”できる！【3Dプリンタ】が普及の予感】

PC上で作った3Dデータを‘立体物’として印刷できるプリンタが注目を集めているとか？ もともと、工業製品の試作品などを造るのに利用されてきたが、改良に改良を重ね、2005年頃からは、一般的なPCでもCADが扱えるようになり、幅広い分野で使われていたようだ。仕組みとしては、PC上で作った3Dデータを設計図として、液状の樹脂に紫外線レーザーを照射し、プラスチックを硬化させることで立体にする。細かい造形も高性能に再現できるので、フィギアなども造ることができる。

なお、欧米ではすでに10万円以下の超小型で低価格の「家庭用プリンタ」も登場！

スゴイですね～。

（記：檸檬爆弾）

今月の一押し本



貫井 徳朗

『愚行録』

東京創元社 ¥735

今月は、ダークでアンハッピーな展開と後味の悪いラストが定番だが独特の世界観になぜかひきづりこまれる不思議な作風の作家、貫井 徳朗さんの著作から、『愚行録』を推薦いたします。（読んで後悔されたら本当に申し訳ございません！）

早稲田大学の看板学部（政経か法か）を卒業後一流企業に就職し順調に出世している夫と慶應女子高→慶應大学→大手商社OL というエリート経歴の妻、愛くるしい子ども（5歳位だったと思います）、東京近郊に瀟洒な一軒家を構え、自家用はベンツという他人からみれば絵に描いたような幸せな家族が、ある夜家に押し入っ

みなさんこんにちは！新旧問わず、私キパノスケのまったくの主観に基づき、お勧め本をどんどん紹介させていただきます。ご感想などお聞かせいただければ幸いです。

た賊に全員惨殺される。しかしものどりの痕跡がない。なぜこの人たちがこんな目に？ある男がこの夫婦の人生を遡り、過去に接点のあった人たちからこの夫婦の「愚行」を暴きだしてゆく物語です。最終的には「この二人は殺されても仕方ない人間だった」と断罪されるのですが、キパノスケ的には「そんなこと

でいちいち殺されたら命がいくつあっても足りんで～」という突っ込み満載でした。子ども殺すなよ……

貫井さんは他にも面白い（後味悪いですが）著作が多数ありますので、よろしければこのあたりからお読みください！

（キパノスケ）





(第1話の9) (この小説はフィクションです)

今回からタイトルが変わりました。ストーリーは変わっていませんm(_ _)m

—前回までのあらすじ—

クライアントの多々美屋食品から譲り受けた社員旅行に突然出かけた翔文館印刷の社員たち。何も知らずに事務所に残された生産管理部の野田原…。そこへ多々美屋食品の受付嬢の高本真理子が来社することになった。

高本との電話から30分ほどしてからまた事務所の電話が鳴った。

「今、事務所の前にいます」

「あ、わかりました、すぐに開けます」野田原はドアのロックを解除しながら窓越しに高本の容姿をみて少し驚いた…。とは言うものの特に派手な格好や露出の多い服を着ていたわけではない。会社での制服姿しか見たことがなかった野田原には、普段着でラフなスタイルの高本が新鮮に映った。そしてイメージが少し違って見えた…。

「早かったですね」

「うん、思ったよりも早く着いたみたい」

野田原は高本を事務所へ案内した。

「前に少しお邪魔したことはあったけど、なんか事務所の雰囲気変わってない？」

「そ、そうですね、まあ、何度か模様替えもしたりとか…」

他愛もない会話が続いたあと、野田原は思い出したように

「あ、なにか坂辺に渡す原稿があったとかおっしゃってましたね…」

「え、ええ…あ、そう、そう」

「何なら預かっておきましょうか…」

高本しばらくは悩んでから「坂辺さんのデスクってどこなの？」と事務所内を見回し始めた。野田原は少し不思議に思った…。高本は原稿らしきものを持っている様子がない。また何故わざわざ普段着で…。普通会社から原稿もってくるなら制服のままでも良いのに…。

っていうか制服の方が好きなのに……余計なことも考えた。

「え、坂辺部長のデスクですか…、右側の一番奥ですけど…何か…」

「へえ、そうなんだ」高本は興味のあるふりをしてデスクに近づいた。そして机上の原稿類を手に取り出した…。いくら付き合いの長いクライアントの受付嬢でもこの行動に少し違和感を感じた野田原は

「あ、あの、何か渡したい原稿があるとか」

「う～ん、そうなんだけどねえ～」高本は野田原の問いかけを遮るようにつぶやいた。

ただそうしながらもまだ坂辺のデスクを見回してる…っていうか物色しているようにも見える。野田原はどうしているかわからず「あの、…何かお捜しで…」と小声で言ったが高本は聞こえていないかのような素振りで今度は引き出しにも手を掛けた。これはやばい…と思った瞬間、背後から男の声がした…。

「見つかりましたか…例の物は…」

(つづく)

遊文舎がお届けする超特急印刷サービス

最短
3時間
で印刷!
すぐスール
.com

すぐスール

検索

<http://www.yubun.co.jp/>

お問い合わせ・ご相談はこちら

いん さ つ す ぐ よ

電話



0120-132394

E-mail

sugusu-ru@yubun.co.jp

受付時間

平日9:00~18:00 (土・日・祝日、年末年始を除く)

編 集 後 記

いよいよ松本伊代(失礼)、今年最後の遊文通信になってしまいました(多分)。コタツに入ってTVを見ながらみかんを食べるといって最高の季節です^^

(Dandy)

次回、
News Letter
Vol.13を
おたのしみに!

